



# 学校だより

令和6年6月28日(金)  
第847号  
さいたま市立日進小学校  
TEL: 663-6942

## 日進小の子どもたちに身に付けさせたい力

校長 野上 正嗣

今年度は平年より2週間以上遅い梅雨入りとなり、蒸し暑い天気が続いています。過日の学校公開日には、お足元の悪い中多くの保護者の皆様に御来校いただき誠にありがとうございました。生き生きと学ぶお子様の姿を御覧いただけたことと思います。1学期は残すところ3週間余り。子どもたちは、学期のまとめをしようとして充実した日々を送っています。

5月30日(木)から6月1日(土)まで、5年生が福島県の南会津に「館岩少年自然の教室」へ行ってきました。昨年度までの2年間は「たかつえ」に行っていましたが、今年度から中規模修繕工事でリニューアルした「さいたま市立館岩少年自然の家」に宿泊することになりました。「自然を感じ、協力して楽しく安全に学ぼう」のスローガンのもと、2日目の前山登山は天候が優れなかったものの、キャンプファイヤーや川魚さばきなど一つひとつの活動から自然の素晴らしさを十分満喫していました。親元を離れての2泊3日の集団生活で、自分のやるべきことをきちんと行い、仲間と協力しながら取り組む様子や困っている友だちに声をかける姿を見て一回り成長したと感じました。本校の活動を支えてくださった館岩少年自然の家の所長様をはじめとしたスタッフの皆様、当日までの体調管理や身支度等の準備、朝早くの見送りや夕方の出迎えに来てくださった保護者や防犯ボランティアの皆様には感謝申し上げます。5年生のこれからの活躍が楽しみです。

さて、こうした自然体験活動や五感を通じた体験による「非認知能力」の育成が、近年注目されています。「非認知能力」とは、コミュニケーション力や意欲、忍耐力など数値での測定が難しい能力のことを表し、OECD(経済協力開発機構)では「社会情動的スキル」と定義しています。一方、テストの点数や偏差値、IQ(知能指数)など数値で表すことができるものは「認知能力」と言われます。

これを踏まえると、学校は同級生との生活や異学年との交流、年齢層に幅のある教職員集団など様々な人とのかかわる機会の場があり、子どもたちは互いに影響し合い、非認知能力を伸ばすことができると考えます。さらに、国語や算数と言った教科の学習をするだけでなく、道徳や学級会での話合い、運動会や校外学習、クラブや委員会、給食や日直などの当番活動、休み時間や掃除の時間、登下校の時間…どれをとっても学校は、子どもたちの力を伸ばすためにはなくてはならない学習の場です。このように考えると、学校が担う役割の大きさに改めて気を引き締めつつ、今後も保護者や地域の皆様と手を取り合い、子どもたちの健全な育成に尽力してまいります。

最後に、6月は学校運営協議会をはじめ、日進小学校地域の会、民生児童委員・主任児童委員連絡協議会を開催しました。そして、こんなにも多くの地域の方々に子どもたちは見守られていることを実感しました。日進小学校の活動や子どもたちに対する期待のお言葉をたくさんいただいたことに感謝し、引き続き、その達成を図ってまいります。